

# 組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

次世代人材育成センター

部局長名：

許 南 浩

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
③-1 目標 近隣の教育委員会等と連携し、公開講座や科学研究コンテスト等を実施することで、地域の科学教育に貢献する。	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> 科学研究コンテストは、高校からも生徒の研究成果発表の場として継続しての開催が期待されており、応募者が増加傾向にある。このため、審査方法や実施時期と場所について検討する必要がある。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 公開講座の三回以上の実施。 高校生を対象とした、科学コンテストの一回以上の開催。	<b>③-2 大学全体への貢献</b> 大学教員が審査委員となり、直に高校生と接することで地域の科学教育推進の一部を担っている事を高校や一般の人にも周知できている。
	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 6月5日、7月17日、10月10日に高校生、高校教員、及び保護者を含む一般を対象にした公開講座を実施した。 8月28日、小学生及び保護者を対象とした公開科学教室「科学大好き岡山クラブ」を実施した。 1月22日、科学コンテスト「集まれ！科学への挑戦者」を実施した。
<b>④センター業務</b>	<b>自己評価</b>
④-1 目標 科学技術振興機構グローバルサイエンスキャンパス事業である「科学先取りグローバルキャンパス岡山」を運営実施する。 意欲と能力のある高校生に「研究能力」、「コミュニケーション能力」、「科学リテラシー」、「科学者倫理」等を指導し、次世代を担う科学人材を育成する。 能力の高い高校生を対象とした、新しい科学教育方法と能力評価方法を開発することで高大接続に寄与する。	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> 高校生を対象にした「科学先取りグローバルキャンパス岡山」を昨年度に引き続き実施した。高知県や兵庫県からの受講者も増え、遠隔の高校生や私立の高校生が参加しやすい実施日の選定が問題となった。このため、昨年度に比べて、日曜日の開催割合を増して対応した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<b>④-2 大学全体への貢献</b> 各学部の研究内容を高校生に直接詳しく伝え、大学入学への動機付けができた。 受講した高校生の複数名が岡山大学へ進学する等、高大接続に寄与している。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 科学先取りグローバルキャンパス岡山の受講生として、先取り基盤コース83名、先取りグローバル発展コース生24名を選抜して、年間27日60コマ(1コマ90分)以上の講義を実施した。 ルーブリックによる受講生評価と面談を実施した。 PISAやクリティカルシンキング能力を評価するテストを試行し、その成果を国内外の科学教育関連の学会セッションで報告した。
<b>【総括記述欄】</b>	
次世代人材育成センター運営会議を通じて、先取り基盤コースに各学部から多くの講義提供を受けることができ、高校生に広く大学で研究されている学問分野の特徴を伝えるとともに高校生に大学入学の動機付けを行うことができた。また、発展コースにおいて海外の高校生とインターネットを介した協働研究を実施するなど、次世代の科学人材育成を目指したプログラムを開発・実施することができた。今年度試行した「研究室インターンシップ」を各学部に広げるなど、全学での協力体制をさらに深めて、高校生への教育活動を推進する。また、委託事業の終了する平成30年以降に、実効性のある高大接続プログラムを実施するための計画を、平成29年度に検討する。	